

かがやく心

個が輝き、共に生きる文京の教育



文京区教育委員会

あ い さ つ

個が輝き、共に生きる文京の教育をめざして

文京区教育委員会教育長 加藤 裕一

文京区教育委員会では、「個が輝き共に生きる文京の教育」を教育ビジョンとして掲げ、一人一人の子どもが尊重され、個の力を発揮できるだけでなく、互いを理解しようと努め、心を通わせ、共に感じ、共に生きていく、自他を尊重する心や態度の育成を目指しております。

その方針のもと、人権尊重の理念を広く定着させ、あらゆる偏見や差別をなくし、様々な人権課題に関わる差別意識の解消を図るために、人権教育を推進しております。

このたび、各校・園が実践している「いのちと人権を大切に^{ふみ}する教育」のうち、自他の生命、人権を尊重する心や態度を育成し、自尊感情や自己肯定感を高める取組について、「文京区教育ビジョン啓発リーフレット」としてまとめました。「文の京」にふさわしい教育の実現に向け、参考にしていただければ幸いです。

これからも、他者とのかかわりの中で、子どもたち一人一人が輝く存在であることに気付き、互いをかけがえのない存在と認め、共に生きていくために、学校・園が、家庭・地域・関係機関等との連携と協力をさらに深め、充実した人権教育の取組が実践されることを願っております。

「かがやく心」の編集にあたって

文京区教育ビジョン啓発誌作成委員会委員長

文京区人権教育推進委員会委員長 溝畑 直樹

令和3年1月に出された中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」では、「一人一人の児童生徒が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、学習指導要領の着実な実施を通して、子供たちの資質・能力を着実に育成することが重要である。」と述べられています。

しかし、私たちの身の回りでは、そして世界では、今も人権が十分に尊重されていない状況が見られることも事実です。人々の対立や軋轢、紛争を平和的に解決するために、また、グローバル化が加速的に進行するこれからの社会で他者との協働を推進していくために、人権尊重の理念は人間として欠くことのできない資質であるといえるでしょう。

「かがやく心」には、「いのちと人権を大切に^{ふみ}する教育」に先進的に取り組んでいる文京区の取組、また、区内各校・園の実践事例等を掲載しています。各校・園におかれましては、本資料の活用を大いに図っていただくとともに、今後とも子どもたちに「自らの人権を大切にしつつ、他者の人権を大切に^{ふみ}する心」を育てていただきますようお願いいたします。

教育目標

- 心身ともに健やかで、自他を尊重し、人間性豊かにたくましく生きる人
- 自ら学び考え、表現し行動する人
- 社会の一員として広い視野をもち、日本の将来を担う人
- 地域を愛し、共に生きる社会を築く人

「文の京」総合戦略

基本構想

- 理念
- 都市像

- 基本政策

- 戦略シート
(主要課題)

教育指針 基本的な視点

- 【視点1】 持続可能な社会を見据えた新しい未来の創り手の育成
- 【視点2】 学校教育における知・徳・体のバランスのとれた力の育成
- 【視点3】 地域ぐるみで子どもの教育に取り組むための連携・協働
- 【視点4】 子どもの学びを保障する教育環境

教育委員会主要施策

～「文の京」(ふみのみやこ)～

これまで、文京区は、「文教の府」といわれ、「文化の香り高いまち」を目指して発展してきた。これに寄せる区民の誇りと愛着を大切にしたい。

そのうえで、区民と区が、時代の大きな変化に適応しつつ、可能性に富んだこの地を、新たな洗練と成熟の段階へとさらに発展させていく都市自治の姿を「文の京」と呼ぶ。

令和5年度 幼稚園・小学校・中学校の取組

| 人 権 教 育 | | |
|-------------|------------|---|
| | 学校園名 | 具体的な取組 |
| 幼 稚 園 | 1 第一幼稚園 | 栽培活動、飼育物との触れ合い（移動動物園）、いのちについての絵本の読み聞かせ、祖父母や地域の高齢者との触れ合い、いのちと人権を考える月間 |
| | 2 柳町幼稚園 | 飼育物とのふれあい、移動動物園、栽培活動、誕生会、祖父母とのふれあい会、いのちと人権を考える月間 |
| | 3 明化幼稚園 | 栽培活動、飼育物との触れ合いや世話活動、移動動物園、祖父母とのふれあい会、いのちと人権を考える月間 |
| | 4 青柳幼稚園 | 動物とのふれあい活動（移動動物園）、栽培活動、飼育物とのふれあいや世話活動、祖父母とのふれあい会、いのちと人権を考える月間 |
| | 5 根津幼稚園 | 飼育物との触れ合いや世話活動、親子で動物との触れ合い活動（移動動物園）、栽培活動、祖父母との交流活動、いのちと人権を考える月間 |
| | 6 小日向台町幼稚園 | 動物とのふれあい活動（移動動物園）、栽培活動、飼育物とのふれあいや世話活動、祖父母とのふれあい会、いのちと人権を考える月間 |
| | 7 本駒込幼稚園 | 栽培活動、飼育物との触れ合いや世話活動、移動動物園、祖父母や地域の高齢者との触れ合い、いのちと人権を考える月間 |
| | 8 千駄木幼稚園 | 人権に関する絵本の読み聞かせ、栽培活動、飼育物との触れ合いや世話活動、移動動物園、祖父母との触れ合い、いのちと人権を考える月間 |
| | 9 後楽幼稚園 | 文京盲学校・大塚特別支援学校との交流活動、飼育物との触れ合いや世話活動、栽培活動、移動動物園、地域の高齢者との交流活動、祖父母との交流活動、誕生会、いのちと人権を考える月間 |
| | 10 湯島幼稚園 | 栽培活動、飼育物との触れ合いや世話活動、移動動物園、誕生会、七夕の集い、いのちと人権を考える月間 |
| 中 学 校 | 1 第一中学校 | 道徳授業地区公開講座、ユニセフ募金、あいさつ運動、いのちの授業、いのちと人権を考える月間、ふれあい月間 |
| | 2 第三中学校 | 道徳授業地区公開講座、いのちと人権を考える月間、いじめ撲滅ポスター・標語作成、ボランティア活動、ユニセフ募金、あいさつ運動、ふれあい月間 |
| | 3 第六中学校 | 道徳授業地区公開講座、幼稚園・保育園、高齢者施設等でのボランティア活動、JRC活動、ブラインドサッカー、ユニセフ募金、社会科授業、生徒会によるいじめ撲滅イェローリボン運動、いのちと人権を考える月間、ふれあい月間、保健委員会によるアウェアネスリボン運動 |
| | 4 第八中学校 | 道徳授業地区公開講座、いのちと人権を考える月間、ユニセフ募金、ふれあい月間 |
| | 5 第九中学校 | 道徳授業地区公開講座、全生徒によって考えた人権カレンダーの作成と掲示による意識を高める行動、生徒会によるいじめ撲滅（IBP）運動、いのちと人権を考える月間、ふれあい月間 |
| | 6 第十中学校 | 道徳授業地区公開講座、全校弁論大会、ユニセフ募金、あいさつ運動、感謝の花活動（自尊感情を高める取組）、いのちと人権を考える月間、ふれあい月間 |
| | 7 文林中学校 | ユニセフ募金、道徳授業地区公開講座、いのちと人権を考える月間、ふれあい月間 |
| | 8 茗台中学校 | 道徳授業地区公開講座、あいさつ運動、人権作文、いのちと人権を考える月間、ふれあい月間 |
| | 9 本郷台中学校 | 道徳授業地区公開講座、あいさつ運動、ふれあい月間、いのちと人権を考える月間、ブラインドサッカー（2年）、ハートフル面談、ユニセフ募金 |
| | 10 音羽中学校 | 道徳授業地区公開講座、音羽公開講座（いのちと心の授業・マナー講座・助産師の講話）、いのちと人権を考える月間、ふれあい月間 |

| | 学校園名 | 具体的な取組 |
|-------------|------------|--|
| 小 学 校 | 1 礪川小学校 | 一人一鉢栽培、あいさつ運動、いのちと人権を考える月間、ユニセフ募金活動、いのちと心の授業、心のアンケートの実施、交流及び共同学習、幼稚園との交流活動（1年）、ふれあい給食（1年）、高齢者との交流（1年）、ふれあい月間 |
| | 2 柳町小学校 | あいさつ週間、あいさつ標語作り、いじめアンケート、いのちと心の授業（6年）、ふれあい月間、いのちと人権を考える月間、障害者・バリアフリー授業（5年）、高齢者との交流 |
| | 3 指ヶ谷小学校 | あいさつ運動、人権目標（毎月）、人権メッセージ（5年）、いのちと心の授業（5年）、ふれあい月間、心のアンケート、ユニセフ募金、人権の本の読み聞かせ、いのちと人権を考える月間 |
| | 4 林町小学校 | ふれあい月間、ふれあい標語・ポスターづくり（6年）、あいさつ運動、ユニバーサルデザインの視点に立った教室環境、ユニセフ活動、いじめアンケート、いのちと心の授業（5・6年）、いのちと人権を考える月間 |
| | 5 明化小学校 | あいさつ運動、いのちと人権を考える月間、ふれあい月間、心のアンケート、「明化しぐさ」の指導、「アイヌの伝統・文化を知ろう」（5年）、「自分らしく生きる」（6年） |
| | 6 青柳小学校 | ふれあい月間、いのちと人権を考える月間、心のアンケート、あいさつ運動、青柳まつり |
| | 7 関口台町小学校 | いのちと人権を考える月間、ふれあい月間、あいさつ運動（3回/年）、関台キッズ（縦割り班活動）、地域の保育園・幼稚園との交流（学校見学、遊び体験） |
| | 8 小日向台町小学校 | ふれあい月間、いじめアンケート、ユニセフ募金、あいさつ週間、あったか言葉の木、アサーションプログラムの実施、いのちとこころの授業（6年）、いきいき小日向（老人福祉施設）との交流、いのちと人権を考える月間 |
| | 9 金富小学校 | ふれあい月間、いのちと人権を考える月間、アサーション授業推進月間、いのちと心の授業（6年）、いじめアンケート、あいさつウイーク、児童会によるいじめ防止キャンペーン（ポスター・標語・作成、各委員会による取組等） |
| | 10 窪町小学校 | いのちと心の授業（5・6年）、ふれあい月間、いのちと人権を考える月間、心のアンケート、ユニセフ募金、委員会活動を中心とするあいさつの取組、ほわほわ言葉の木（かやの木ホールに掲示）、なかよし班活動、菊づくり |
| | 11 大塚小学校 | アサーションプログラムを取り入れた授業、いのちと人権を考える月間、ふれあい月間・心のアンケート、ユニセフ学習、いのちと心の授業（5・6年） |
| | 12 湯島小学校 | いのちと人権を考える月間、ふれあい月間（人権標語づくり）、花育（菊づくり、花の苗・野菜づくり、公園整備）、心のアンケート、ユニセフ募金 |
| | 13 誠之小学校 | ふれあい月間、いのちと心の授業（5年）、せいかつアンケート、JRC（日本赤十字）活動、いのちと人権を考える月間 |
| | 14 根津小学校 | ふれあい月間、いのちと人権を考える月間、「にこにこバルーン」作成・掲示、あいさつ運動、心のアンケート、いのちと心の授業（6年）、ユニセフ募金活動 |
| | 15 千駄木小学校 | 心のアンケート、ふれあい月間、障害者理解教育、高齢者理解教育、あいさつ運動、栽培活動、いのちと人権を考える月間、ユニセフ募金、人権標語 |
| | 16 汐見小学校 | いのちと人権を考える月間、ふれあい月間、心のアンケート、あいさつ運動（年間）、ユニセフ募金活動、高齢者体験（4年）、人権標語作り、人権集会 |
| | 17 昭和小学校 | ふれあい月間、いじめアンケート、いのちと人権を考える月間、地域資源の活用・連携 |
| | 18 駒本小学校 | 年間を通じたあいさつの指導、アサーションプログラムの実施、心のアンケート・いじめアンケートを通じた人権教育の実施、いのちと人権を考える月間、ふれあい月間 |
| | 19 駕籠町小学校 | 駕籠町心いきいき標語作り、いじめに関するアンケート、挨拶運動、ユニセフ募金、九中人権カレンダー掲示、ふれあい月間、いのちと人権を考える月間 |
| | 20 本郷小学校 | ふれあい月間、あいさつ運動、学級で使いたい言葉、いじめアンケート・いじめ防止行動宣言、いのちと心の授業（6年）、いのちと人権を考える月間、ユニセフ募金 |

文京区人権教育推進委員会について

文京区教育委員会では、毎年、幼稚園、小学校、中学校からそれぞれ委員を委嘱し、区内幼稚園、小・中学校における人権教育の一層の充実を図るために、「文京区人権教育推進委員会」を組織しています。

主な活動は、東京都教育委員会が設置する「人権尊重教育推進校の研究・実践に関するブロック別連絡会」等へ参加し、人権教育に関する協議や研究実践発表等の内容について区内学校（園）に普及・啓発を図ります。

○中野区立ひがしなかの幼稚園 研究発表会に参加して 文京区人権教育推進委員幼稚園部会

研究主題：夢中になって遊ぶ幼児を育てる～「こうしたい」という思いを支える教師の援助と環境～

1 研究内容・方法

夢中になって遊ぶ姿を出し合い、それに基づいて幼児の思いを「感じる・見つける」「やってみる・うまくいかない」「広がる・深まる」と3つのキーワードに整理し、図式化した。目指す幼児像を共通にした上で事例を取り、環境を再構成することにした。

2 研究のまとめ

「こうしたい」という幼児の思いを支えるために、教師は、幼児が動き出したらずに具体的な援助をするより、まずは幼児理解を基に見守ることが必要である。また、「こうしたい」を教師も幼児同士も、互いに大切にできる関係づくりを日頃培っておくことが、互いに考えを出し合い、受け入れ合いながら遊びを進めていくことにつながる重要な要素である。そして、それに伴い、「こうしたい」を支える物的環境や動線も常に考え、整えておくことが大切である。

3 研究発表会に参加して

中野区立ひがしなかの幼稚園では、幼児の「こうしたい」ととても大切にしている。その思いが幼児同士ぶつかることがあったとしても、園内研究で出し合ってきた事例や研究保育での話し合いを踏まえ、まずは互いの思いを聞き、見守り、幼児自身に考えさせるということをとても大切な援助と考え、実践している。この経験は、幼児が互いの思いを受け入れ、折り合いをつけ、新たな遊びの進め方や楽しさを幼児自身で見出し、かつ、豊かな人間関係を築く土台となっている。

○台東区立石浜小学校 研究発表会に参加して 文京区人権教育推進委員小学校部会

研究主題：なりたい自分になるために学び続ける児童の育成～協働的な学びを通して～

1 研究内容・方法

(1) 自分の目標に向かう、粘り強い学び (2) 多様な他者との協働 (3) 人権感覚を磨く日常実践 (4) 教員の学び

2 研究のまとめ

- ・児童が自己の学びを確かめながら、意欲的に学習を進める姿が見られるようになった。
- ・ゲストティーチャーを通して学ぶことは、自分の考えをもつことに効果的だった。
- ・異学年で認め合う場が、児童の自己肯定感を高め、人権意識の向上につながった。
- ・教員研修により、人権教育への理解を深め、指導力の向上につながった。

3 研究発表会に参加して

台東区立立石小学校では、自らの目標を明確にもち、課題に向かって、多様な他者との協働を通して、自らの学習を振り返りながら、粘り強く学習に取り組む児童の育成を目指し、人権教育を行っている。粘り強く学習に取り組むために、「学び続けるプロセス」として、3段階の探求的な学びのステージを設定し、学習計画に活用していた。また、多様な他者との協働のために、「協働的な学びのポイント5」として、協働的な学びのポイントを5つ考え、明確に意識しながら指導を行っていた。

学習計画に、児童の思いや考えが反映され、人権課題に対して児童一人一人が自分の思いや考えをもち、伝えあうことで、自分たち自身で授業をつくり、探求していく姿が印象的だった。

○新宿区立西新宿中学校 研究発表会に参加して 文京区人権教育推進委員中学校部会

研究主題：自分らしく生きるための人権教育～人間の多様性を尊重し、様々な人権問題の解決に向けてともに学び合い行動する生徒の育成～

1 研究内容・方法

- ・「性のあり方」をマイノリティに関わる理解だけでなく、誰もが関係するSOGI(性自認・性的指向)に関わる内容についても理解を深める教育を行う。
- ・社会における男女のあり方の課題を理解し改善していこうとする資質の育成。
- ・「女性」「子供」「障害者」「同和問題(部落差別)」「アイヌの人々」「外国人」「HIV感染者・ハンセン病患者等」「北朝鮮による拉致問題」「路上生活者」など様々な人権課題解消へ向けた人権教育の推進。

2 研究の成果

- ・アンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み)の見直しや改善を図れた。
- ・「人権サポーターズ」が発足し、多様な考えや意見を生徒と共有できる場を設け、生徒にとって過ごしやすく生活しやすい学校の実現に取り組んだ。
- *人権サポーターズは生徒代表12名で構成され、定期的には人権問題について会議をしている。

3 研究発表会に参加して

1年生の総合的な学習の時間「共に生きる社会をつくるために」を参観した。生徒は聴覚障害者の方より話を聞き、日常生活で困っていることなどを共有した後、様々な障害等をもつ方が生活上で困難なことや必要な配慮を班ごとに話し合い発表した。意欲的に話し合いをする生徒の姿に研究の取り組みの深さを感じた。「呼称の見直し」「男女の色分けの見直し」「整列時の隊形の見直し」「教職員の言動の見直し」「委員会男女定員枠の撤廃」などのアンコンシャス・バイアスの見直しや改善は、今後の研究課題ともなり得るものであった。

「いのちと心のアサーションプログラム」

よりよい人間関係をはぐくむアサーショントレーニングの考え方を導入した「いのちと心のアサーションプログラム」を実施しています。

1 実施の趣旨

児童・生徒が、かけがえのない命を大切にすることを育み、伝え合う力を高め、望ましい人間関係をつくる力を身に付け、生きることの素晴らしさを、教育活動を通じて実感できるようにすることは重要なことである。また、児童・生徒が自分の気持ちや考えを表現でき、自分の感情をコントロールできるようになることは、いじめや不登校、生命にかかわる重大な事故の早期発見・予防につながり児童・生徒の生活指導上の課題の解決に向けた一助となる。

これを受けて、自他の生命を尊重し、自尊感情や自己肯定感を高める教育の充実を図るため、「いのちの教育推進モデル校」を指定し、自分の気持ちや考えを表現するスキルを身に付けるとともに、自分も他人も大切にすることが醸成され、よりよい人間関係をはぐくむことができる「いのちと心のアサーションプログラム」の研究を行った。

2 内容

大学・NPO等外部講師の協力を得ながら、自他の生命を尊重し、自尊感情や自己肯定感を高める教育の充実を図るため、自分の気持ちや考えを表現するスキルを身に付け、自分も他人も大切にすることが醸成され、よりよい人間関係をはぐくむことができる「いのちと心のアサーションプログラム」についての研究である。

プログラムの研究にあたっては、「よりよい人間関係」を築くための「自他尊重の自己表現」であるアサーショントレーニングの導入を前提とした。

◆主な研究内容

- ・発達段階に応じた指導プログラムの作成
- ・プログラムのねらいをより効果的に達成するためのアサーショントレーニングの教員研修
- ・スクールカウンセラーや教育相談室等と連携したストレスマネジメント等の実践
- ・命の大切さを実感できる教育活動の充実

「いのちと心の授業」

外部講師を招き、命の大切さを学び、よりよく生きることについて考えます。

1 ねらい

児童・生徒が、かけがえのない命を大切にすることを育み、生きることの素晴らしさを、教育活動の中で実感できるようにすることは重要なことである。

外部講師の講話や授業を通じて

- (1) 児童・生徒の自尊感情や自己肯定感を高め、自分も他人も大切にすることを育てる。
よりよい人間関係を育むことで、いじめや不登校、生命にかかわる重大な事故等の早期発見予防の一助とする。
- (2) いのちは自分だけのものではなく、受け継がれている、支えられている、支えているといういのちのつながり、多様性に気付かせる。
- (3) 東日本大震災での体験も合わせ、児童・生徒が「限りあるいのち」「生かされたいのち」に自覚し、感謝し自らの命を輝かせ、よりよく生きるための豊かな心の育成と生き方教育の充実を図る。

2 実施の形式 例

- A 教員の公開授業及び講師を呼んでの授業（講話）を実施する
- B 講師を呼んでの授業（講話）を実施する
- C 講師の授業（講話）と児童・生徒との意見交換を実施する
- D 道徳の授業のゲストティーチャーとして講師を呼ぶ
- E 総合的な学習の時間の「生き方」「健康」単元等のゲストティーチャーとして講師を呼ぶ
- F 安全教育や健康教育の一環として、ゲストティーチャーとして講師を呼ぶ
- G 土曜授業公開や道徳授業地区公開講座（公開授業）の開催日に実施する
- H その他

「いのちと人権を考える月間」

自尊感情や自己肯定感を高め、自分や他者の命、人権を大切にする心や態度を育てる取組を、強化月間中に具体的な教育活動として位置付けています。

5月と12月に設定した「いのちと人権を考える月間」において、人権教育や生命尊重教育に重点的に取り組んでいます。すべての区立幼稚園、小・中学校において自尊感情や自己肯定感を高め、自分や他者の命、人権を大切にする心や態度を育てる具体的な取組を行い、人権教育や生命尊重教育の推進を図っています。年2回の「いのちと人権を考える月間」の報告をまとめ、各校（園）での取組について振り返るとともに、実践の様子や傾向等を把握し、次年度からの更なる充実につなげます。

〔実施の目的〕

子どもたちが、自尊感情や自己肯定感を高め、自分や他者の命や人権を大切にしようとする心や態度を育てる取組の充実を図るとともに取組状況の点検を行い、現状や取組の効果等を把握する。

◆ 「いのちの教育」の重点

- ・自尊感情・自己肯定感を育てる。
- ・「限りあるいのち」「かけがえのないいのち」「受け継がれるいのち」「生かされたいいのち」等多様な視点から生命を捉えられるようにする。
- ・いのちの尊さと人間としての生き方を教える。
- ・相手のことも考えて自分の考えや思いを伝えられるようにする。

◆ 「人権教育」の目標

一人一人の幼児・児童・生徒がその発達段階に応じ、人権の意義・内容や重要性について理解し、自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができるようになり、それが様々な場面や状況下での具体的な態度や行動に現れるとともに、人権が尊重される社会づくりに向けた行動につながるようにする。

各校園の取組

- ・協働的な活動を通して、学級・学年の中で一人一人が自己の力を発揮し、互いに認め合える雰囲気づくりや指導を行い、自他を大切にする心を培うことができた。
- ・日々の保育の中で、互いに心地よい友達との関わり方を幼児が考えられる機会をつくった。具体的な場面を捉え、自分とは違う相手の思いに気づき、適切な思いの伝え方について指導した。
- ・代表委員会を中心に、各学級で「いじめ標語」を作成し、教室内や廊下等に掲示して、児童一人一人のいじめ防止に対する意識向上を図った。
- ・年2回の人権月間に合わせて「ニコニコバルーン」という、言われて嬉しい気持ちになった言葉を掲示する活動を全校児童で取り組んだ。
- ・全校朝礼にて、校長先生から全校生徒に向けて、人権や命の大切さについての講話を行った。
- ・全校生徒を対象に、弁護士による人権学習を行った。いじめによって傷ついた子どもの話を聞き、それぞれの生徒が人権尊重といじめ撲滅への決意を固くした。

令和5年度 「かがやく心」リーフレット

令和6年3月発行

〈教育ビジョン啓発誌作成委員会及び人権教育推進委員会委員〉

委員長 溝 畑 直 樹 (小日向台町小学校・校長)
副委員長 米 澤 千 秋 (柳町幼稚園・副園長)
副委員長 伴 太 牧 (第八中学校・副校長)
委 員 高 橋 寛 子 (明化幼稚園・主任教諭)
委 員 江 口 夏 那 (小日向台町小学校・教諭)
委 員 前 田 俊 二 (第八中学校・主任教諭)

〈文京区教育委員会〉

教 育 長 加 藤 裕 一
教育指導課
教育指導課長 赤 津 一 也
統括指導主事 藤 咲 秀 修
統括指導主事 高 橋 拓 也
指 導 主 事 室 岡 祐 太
指 導 主 事 上 野 義 博
指 導 主 事 樋 口 諒

編集・発行／文京区教育委員会教育推進部教育指導課

〒112-8555 文京区春日1-16-21 電話 03-5803-1300

デザイン／勝美印刷株式会社